

# さけ・ます資源増大対策調査事業（サクラマス幼魚回遊生態調査）

静 一 徳

## 目 的

サクラマス幼魚の定置網での混獲実態、北上期の回遊生態を把握する。

## 材料と方法

2019年1月～5月に関根浜にて小型定置網により混獲されたサクラマス幼魚、2020年3月～6月に尻労にて大型定置網により混獲されたサクラマス幼魚を漁業者の協力で日付別に採集した（図1）。採集した幼魚は-20℃で冷凍保存した。冷凍サンプルは内水面研究所へ搬送し、魚種判別と日付別の尾数を確認した。尻労では日別の操業の有無確認のため、操業記録の提供を受けた。また関根浜では幼魚採集時に、尻労では定置網に設置した水温ロガーにより1時間間隔で表層水温を計測した。



図1. サクラマス幼魚調査地点

## 結果と考察

関根浜では1月中旬から5月中旬に採捕され合計10尾であった。採捕時の水温は7.3℃～10.8℃であった。1月～3月の比較的早期に採捕された魚については北上回遊期の幼魚かは不明であった。

尻労では3月31日～6月22日に採捕され合計163尾であった。採捕時の水温は8.3℃～14.9℃であった。日平均水温が13℃を超えた6月上旬以降はほとんど採捕が無かった。水温上昇の早かった2015年、2016年と比較し水温上昇の遅かった2020年は幼魚の入網が遅くまで続いた。過去の調査でも表層水温13℃前後を境にサクラマス幼魚の入網が無くなる事が確認されており<sup>1)</sup>、サクラマス幼魚の北上回遊と表層水温との間に密接な関係があることが示唆された。

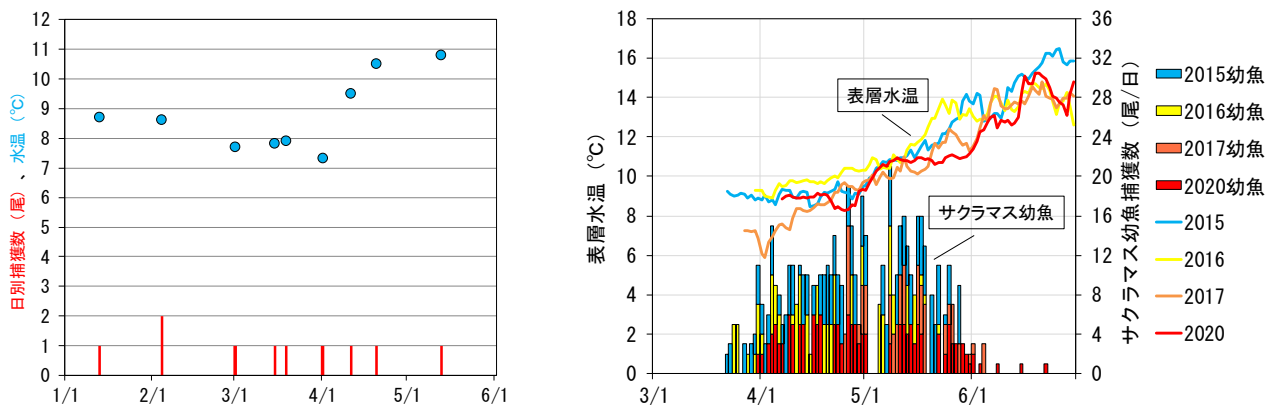


図2. 表層水温とサクラマス幼魚採捕数（左：関根浜、右：尻労）

## 謝 辞

調査にご協力いただいた関根浜漁業協同組合の高橋専務、尻労漁業協同組合の吉田漁業部、川端博昭氏に御礼申し上げます。

## 文 献

1) 静一徳（2021）サクラマス幼魚回遊生態調査．平成29年度青森県産業技術センター内水面研究所事業報告，35.